

令和4年度病害虫発生予察情報 特殊報 第2号

令和4年9月2日
広島県西部農業技術指導所

1 害虫名 トマトキバガ (チョウ目キバガ科) *Tuta absoluta*(Meyrick)

2 特殊報の内容 広島県における誘殺の初確認

3 発生経過

(1) 発生確認年月日 令和4年7月27日

(2) 発生地域 広島県北東部

(3) 確認の経緯

令和4年7月に広島県内の施設栽培トマトほ場周辺に設置したトマトキバガの侵入警戒トラップにおいて、トマトキバガ疑似成虫が誘殺された(写真1)。神戸植物防疫所に同定を依頼したところ、本県では未発生のトマトキバガと判明した。現在のところ、県内では本虫による農作物の被害は確認されていない。

(4) 他県での発生状況等

国内では、令和3年10月に熊本県で初めて確認され、宮崎県、鹿児島県、大分県、福岡県、長崎県、愛媛県、和歌山県、岡山県、山口県で確認されている。

4 形態および生態

成虫は、翅を閉じた静止時で体長5~7mm(前翅長約5mm,開帳約10mm)。前翅は、灰褐色の地色に黒色斑が散在する。後翅は、一様に淡黒褐色、翅頂下でえぐれる。

幼虫の体長は終齢で約8mm,体色は淡緑色~淡赤色,頭部は淡褐色。前胸の背面後方に、細い黒色横帯がある(写真2)。

1年に複数の世代が発生し、繁殖力が高い。発生世代数は環境条件によって異なり、地域によって差はあるが、年に10~12世代発生する地域もある。卵~成虫になるまでの期間は24~38日程度で、気温が低い時期はさらに延びる。成虫は夜行性で、日中は葉の間に隠れていることが多く、雌は一生のうち平均で約260個の卵を寄主植物の葉の裏面などに産み付ける。

5 被害および主な寄生植物

トマト、なす、ピーマン、ばれいしょ等のナス科植物が主要な寄主植物である。マメ科のいんげんまめも、寄主植物として確認されている。

トマトでは、茎葉の内部に幼虫が潜り込んで食害し、孔道が形成される(写真3)。食害部分は表面のみを残して薄皮状になり白~褐変した外観となるが、ハモグリバエより広範囲に食害痕が残る。果実では、幼虫がせん孔侵入して内部組織を食害するため、果実表面に数mm程度のせん孔痕が生じるとともに食害部分の腐敗が生じ果実品質が著しく低下する(写真4)。

ばれいしょでは地上部を加害し(写真5)、塊茎は直接加害しないとされてきたが、近年、まれに塊茎への加害が報告されている。

6 防除対策

- (1) 現在、トマトキバガに対する登録農薬はないが、植物防疫法第 29 条 1 項に基づく措置として、別紙に記載された農薬による防除を行うことができる。なお、薬剤防除にあたっては、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の異なる薬剤のローテーション散布を行う。
- (2) ほ場内をよく見回り、見つけ次第捕殺する。
- (3) 被害葉や被害果は、ほ場内から持ち出すとともに、野外に放置せず速やかに適切に処分する。
- (4) 海外では、天敵であるタバコカスミカメ類による生物的防除が行われている。

【写真 2～5 農林水産省横浜植物防疫所 原図】



写真 1 県内で誘殺された成虫



写真 2 トマトキバガ終齢幼虫



写真 3 トマト葉の食痕 (飼育個体)



写真 4 トマト果実の食痕 (飼育個体)



写真 5 ばれいしょ葉の食痕 (飼育個体)

○病害虫発生情報に関するお問い合わせ先

西部農業技術指導所 (植物防疫チーム) (〒739-0151 東広島市八本松町原 6869 電話 082-420-9662)

広島県立総合技術研究所 農業技術センター生産環境研究部

(〒739-0151 東広島市八本松町原 6869 電話 082-429-0521)

農林水産局農業技術課

(〒730-8511 広島市中区基町 10-52 電話 082-513-3559)

○病害虫発生予察情報は、広島県ホームページで閲覧できます。

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/>

トマトキバガに対しては 以下の農薬を使用して防除を行ってください。

以下に記載した農薬はトマトキバガに対して登録はありませんが、植物防疫法第29条第1項の規定による防除を行うために使用が可能です。

また、使用にあたっては購入した農薬の適用作物、使用方法、使用時期、散布液量、希釈倍数使用量、使用回数を守ることで、出荷停止等、流通に支障が出ることもありません。

○ トマト

農薬の種類	使用方法	希釈倍数 使用量	使用時期	散布液量	本剤の 使用回数	RAC コード	系統名	チョウ目 登録	ハモグリバ 工類登録
アクリナトリン・スピロメシフェン水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	3A 23	ピレスロイド系 ピレトリン系 テトロン酸及びテトラ ミン酸誘導体	○	-
アクリナトリン水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	150～300L/10a	3回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
イソキサチオン粉剤	土壌表面散布土 壌混和処理	6kg/10a	は種時又は植付 時		2回以内	1B	有機リン系	○	-
インドキサカルブ水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	22A	オキサジアジン系	○	-
エマメクチン安息香酸塩・ ルフェエロン水和剤	散布	1500倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	6 15	アベルメクチン系 ミルベマイシン系 ベンゾイル尿素系	○	○
エマメクチン安息香酸塩乳 剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	5回以内	6	アベルメクチン系 ミルベマイシン系	○	○
クロマフェノジド水和剤	散布	1000～2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	18	ジアシル-ヒドラジン 系	○	-
クロラントラニプロール 水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
クロラントラニプロール 粒剤	株元散布	1g/株	育苗期後半～定 植時		1回	28	ジアミド系	○	○
クロルフェナピル水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	13	ピロール系 ジニトロフェノール系 スルフルアミド	○	○
クロルフルアズロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	-
シアントラニプロール・ チアメトキサム粒剤	株元散布	2g/株	鉢上げ時～育苗 期後半		1回	28 4A	ジアミド系 ネオニコチノイド系	○	○
シアントラニプロール水 和剤	散布	2000～4000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
スピネトラム水和剤	散布	2500～5000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○
スピノサド水和剤	散布	5000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○
ダイアジノン粒剤	土壌混和	6～9kg/10a	は種時又は植付 時		2回以内	1B	有機リン系	○	-
ダイアジノン粒剤	全面土壌混和又は 作条土壌混和	4～6kg/10a	は種時又は定植 時		2回以内	1B	有機リン系	○	-
テトラニプロール水和剤	散布	2500～5000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
テフルベンズロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	-
ノバルロン乳剤	散布	2000～3000倍	1番花の開花ま で	100～300L/10a	4回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
ピリダリル水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	UN		○	○
フルキサメタミド乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	30	メタジアミド系 イソオキサゾリン系	○	○
フルフェノクスロン乳剤	散布	2000～4000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	4回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
フルベンジアミドくん煙剤	くん煙	くん煙室容積 400m ³ (床面積 200m ² ×高さ2m) 当り50g	収穫前日まで		2回以内	28	ジアミド系	○	-
フルベンジアミド水和剤	散布	2000～4000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	28	ジアミド系	○	-
ベルメトリン粒剤	株元散布	3kg/10a	生育初期		3回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
メタフルミゾン水和剤	散布	1000～2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	22B	セミカルバゾン系	○	-
メトキシフェノジド水和剤	散布	2000～4000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	18	ジアシル-ヒドラジン 系	○	-
ルフェエロン乳剤	散布	2000～3000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	4回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
レビメクチン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	6	アベルメクチン系 ミルベマイシン系	○	○
還元澱粉糖化物・クロチア ニジン・ピリダリル・ベル メトリン・マンデストロピ ン水和剤	散布	原液	収穫前日まで		2回以内	4A 3A UN	ネオニコチノイド系 ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
脂肪酸グリセリド・スピノ サド水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○

○ ミニトマト

農薬の種類	使用方法	希釈倍数 使用量	使用時期	散布液量	本剤の 使用回数	RAC コード	系統名	チョウ目 登録	ハモグリバ 工類登録
アクリナトリン・スピロメ シフェン水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	3A 23	ピレスロイド系 ピレトリン系 テトロン酸及びテトラ ミン酸誘導体	○	-
アクリナトリン水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	150~300L/10a	2回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
イソキサチオン粉剤	土壌表面散布土 壌混和処理	6kg/10a	は種時又は植付 時		2回以内	1B	有機リン系	○	-
エマメクテン安息香酸塩・ ルフェヌロン水和剤	散布	1500倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	6 15	アベルメクテン系 ミルベマイシン系 ベンゾイル尿素系	○	○
エマメクテン安息香酸塩乳 剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	5回以内	6	アベルメクテン系 ミルベマイシン系	○	○
クロマフェノジド水和剤	散布	1000~2000倍	収穫7日前まで	100~300L/10a	3回以内	18	ジアシル-ヒドラジン 系	○	-
クロラントラニリプロール 水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
クオルフェナビル水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	13	ピロール系 ジニトロフェノール系 スルフルアミド	○	○
クオルフルアズロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	-
シアントラニリプロール・ チアメトキサム粒剤	株元散布	2g/株	鉢上げ時~育苗 期後半		1回	28 4A	ジアミド系 ネオニコチノイド系	○	○
シアントラニリプロール水 和剤	散布	2000~4000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
スピネトラム水和剤	散布	2500~5000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○
スピノサド水和剤	散布	5000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○
テトラニリプロール水和剤	散布	2500~5000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
テフルベンズロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	-
ノバルロン乳剤	散布	2000~3000倍	1番花の開花ま で	100~300L/10a	4回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
ピリダリル水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	UN		○	○
フルキサメタミド乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	30	メタジアミド系 イソキサゾリン系	○	○
フルフェノクスロン乳剤	散布	2000~4000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
フルベンジアミド水和剤	散布	2000~4000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	28	ジアミド系	○	-
ベルメトリン粒剤	株元散布	3kg/10a	生育初期		1回	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
メタフルミゾン水和剤	散布	1000~2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	22B	セミカルバゾン系	○	-
ルフェヌロン乳剤	散布	2000~3000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
レビメクテン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	6	アベルメクテン系 ミルベマイシン系	○	○
脂肪酸グリセリド・スピノ サド水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○

○ ピーマン

農薬の種類	使用方法	希釈倍数 使用量	使用時期	散布液量	本剤の 使用回数	RAC コード	系統名	チョウ目 登録	ハモグリバ 工類登録
インドキサカルブ水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	22A	オキサジアジン系	○	-
エマメクチン安息香酸塩・ ルフェヌロン水和剤	散布	1500倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	6 15	アベルメクチン系 ミルベマイシン系 ベンゾイル尿素系	○	○
エマメクチン安息香酸塩乳 剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	6	アベルメクチン系 ミルベマイシン系	○	○
クロマフェノジド水和剤	散布	1000～2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	18	ジアシル-ヒドラジン 系	○	-
クロラントラニプロール 水和剤	散布	1000～2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	28	ジアミド系	○	○
クロラントラニプロール 水和剤	灌注	100倍	育苗期後半～定 植当日	1株当たり25ml	1回	28	ジアミド系	○	○
クロルフェナビル水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	13	ピロール系 ジニトロフェノール系 スルフルアミド	○	○
クロルフルアズロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	-
シアントラニプロール水 和剤	散布	2000～4000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
シベルメトリン水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	5回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
スピネトラム水和剤	散布	2500～5000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○
スピノサド水和剤	散布	2500～5000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○
ダイアジノン粒剤	土壌混和	6～9kg/10a	は種時又は植付 時		2回以内	1B	有機リン系	○	-
ダイアジノン粒剤	全面土壌混和又は 作業土壌混和	4～6kg/10a	は種時又は定植 時		2回以内	1B	有機リン系	○	-
テトラニプロール水和剤	散布	2500～5000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
ノバルロン乳剤	散布	3000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	4回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
ピリダリル水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	UN		○	○
フルキサメタミド乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	30	メタジアミド系 イソオキサゾリン系	○	○
フルフェノクスロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
フルベンジアミドくん煙剤	くん煙	くん煙室容積 400m ³ (床面積 200m ² ×高さ2m) 当り50g	収穫前日まで		2回以内	28	ジアミド系	○	-
フルベンジアミド水和剤	散布	2000～4000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	28	ジアミド系	○	-
ベルメトリン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	5回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	○
ベルメトリン乳剤	散布	200倍	収穫前日まで	100～300mL/m ²	5回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
ベルメトリン乳剤	散布	300倍	収穫前日まで	100～300mL/m ²	5回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	○
ベルメトリン粒剤	株元散布	3kg/10a	生育初期		5回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
メタフルミゾン水和剤	散布	1000～2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	22B	セミカルバゾン系	○	-
メトキシフェノジド水和剤	散布	2000～4000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	18	ジアシル-ヒドラジン 系	○	-
ルフェヌロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	4回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
レビメクチン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	6	アベルメクチン系 ミルベマイシン系	○	○
脂肪酸グリセリド・スピノ サド水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○

○ なす

農薬の種類	使用方法	希釈倍数 使用量	使用時期	散布液量	本剤の 使用回数	RAC コード	系統名	チョウ目 登録	ハモグリバ 工類登録
アクリナトリン水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	150~300L/10a	4回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
イソキサチオン粉剤	土壌表面散布土 壌混和処理	6kg/10a	は種時又は植付 時		2回以内	1B	有機リン系	○	-
インドキサカルブ水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	22A	オキサジアジン系	○	-
エマメクチン安息香酸塩・ クロラントラニプロール 水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	6 28	アベルメクチン系 ミルベマイシン系 ジアミド系	○	○
エマメクチン安息香酸塩・ ルフェヌロン水和剤	散布	1500倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	6 15	アベルメクチン系 ミルベマイシン系 ベンゾイル尿素系	○	○
エマメクチン安息香酸塩乳 剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	6	アベルメクチン系 ミルベマイシン系	○	○
クロマフェノジド水和剤	散布	1000~2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	18	ジアシル-ヒドラジン 系	○	-
クロラントラニプロール 水和剤	灌注	100倍	育苗期後半~定 植当日	1株当り25ml	1回	28	ジアミド系	○	○
クロラントラニプロール 水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	28	ジアミド系	○	○
クロラントラニプロール 粒剤	株元散布	1g/株	育苗期後半~定 植時		1回	28	ジアミド系	○	○
クロルフェナビル水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	4回以内	13	ピロール系 ジニトロフェノール系 スルフルアミド	○	○
クロルフルアズロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	-
シアントラニプロール・ チアメトキサム粒剤	株元散布	2g/株	鉢上げ時~育苗 期後半		1回	28 4A	ジアミド系 ネオニコチノイド系	○	○
シアントラニプロール水 和剤	灌注	400株当り25ml	育苗期後半~定 植当日	400株当り10~ 20L(1株当り25~ 50ml)	1回	28	ジアミド系	○	○
スピネトラム水和剤	散布	2500~5000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○
スピノサド水和剤	散布	5000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○
ダイアジノン粒剤	土壌混和	6~9kg/10a	は種時又は植付 時		2回以内	1B	有機リン系	○	-
ダイアジノン粒剤	全面土壌混和又 は作茶土壌混和	4~6kg/10a	は種時又は定植 時		2回以内	1B	有機リン系	○	-
テトラニプロール水和剤	灌注	200倍	育苗期後半~定 植当日	25ml/株	1回	28	ジアミド系	○	○
テトラニプロール水和剤	散布	2500~5000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
テフルベンズロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	-
ノバルロン乳剤	散布	2000~3000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	4回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
ピフェントリンくん煙剤	くん煙	くん煙処理室の 容積400m ³ (床面 積200m ² ×高さ 2m)当り48g	収穫前日まで		3回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
ピリダリル水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	4回以内	UN		○	○
フェンバレレート・マラソ ン水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	5回以内	3A 1B	ピレスロイド系 ピレトリン系 有機リン系	○	-
フルキサメタミド乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	30	メタジアミド系 イソオキサゾリン系	○	○
フルフェノクスロン乳剤	散布	2000~4000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	4回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
フルベンジアミドくん煙剤	くん煙	くん煙室容積 400m ³ (床面積 200m ² ×高さ2m) 当り50g	収穫前日まで		3回以内	28	ジアミド系	○	-
フルベンジアミド水和剤	散布	2000~4000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	-
ベルメトリン粒剤	株元散布	3kg/10a	生育初期		3回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
メタフルミゾン水和剤	散布	1000~2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	22B	セミカルバゾン系	○	-
メトキシフェノジド水和剤	散布	2000~4000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	18	ジアシル-ヒドラジン 系	○	-
ルフェヌロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	4回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
レビメクチン乳剤	散布	1000~2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	6	アベルメクチン系 ミルベマイシン系	○	○
還元澱粉糖化物・クロチア ニジン・ピリダリル・ベル メトリン・マンデストロピ ン水和剤	散布	原液	収穫前日まで		3回以内	4A 3A UN	ネオニコチノイド系 ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
脂肪酸グリセリド・スピノ サド水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○

○ ばれいしょ

農業の種類	使用方法	希釈倍数 使用量	使用時期	散布液量	本剤の 使用回数	RAC コード	系統名	チョウ目 登録	ハモグリバ 工類登録
NAC水和剤	散布	800~1000倍	収穫7日前まで	100~300L/10a	3回以内	1A	カーバメート系	○	-
PAP乳剤	散布	1000倍	収穫14日前まで	100~300L/10a	2回以内	1B	有機リン系	○	○
PAP粉剤	散布	3kg/10a	収穫14日前まで		2回以内	1B	有機リン系	○	○
アセタミプリド水溶剤	散布	2000倍	収穫7日前まで	100~300L/10a	3回以内	4A	ネオニコチノイド系	○	○
アセフェート水溶剤	散布	1000倍	収穫30日前まで	100~300L/10a	2回以内	1B	有機リン系	○	○
カルタップ水溶剤	散布	1000倍	収穫7日前まで	100~300L/10a	6回以内	14	ネライストキシン類縁 体	○	○
カルタップ粉剤	種いも粉衣	種いも重量の 0.3%	植付前		1回	14	ネライストキシン類縁 体	○	-
シアントラニリプロール水 和剤	無人航空機によ る散布	40倍	収穫7日前まで	2~3.2L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
シアントラニリプロール水 和剤	散布	4000倍	収穫7日前まで	100~300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
スピネトラム水和剤	散布	2500~5000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○
ダイアジノン粒剤	土壌混和	6~9kg/10a	植付前		1回	1B	有機リン系	○	-
ダイアジノン粒剤	全面土壌混和又 は作業土壌混和	4~6kg/10a	植付前		1回	1B	有機リン系	○	-
トラロメトリン水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	5回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	○
ピリダリル水和剤	散布	1000倍	収穫7日前まで	100~300L/10a	2回以内	UN		○	○
フルベンジアミド水和剤	散布	2000~4000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	28	ジアミド系	○	-
プロチオホス乳剤	散布	1000倍	収穫14日前まで	100~300L/10a	3回以内	1B	有機リン系	○	○
プロフェノホス乳剤	散布	1500倍	収穫7日前まで		6回以内	1B	有機リン系	○	-
ベルメトリン粒剤	株元散布	3kg/10a	生育初期		4回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
メソミル水和剤	散布	1000倍	収穫7日前まで	100~300L/10a	5回以内	1A	カーバメート系	○	-
メソミル粉粒剤	散布	3~5kg/10a	収穫7日前まで		5回以内	1A	カーバメート系	○	-
ルフェヌロン乳剤	散布	3000倍	収穫7日前まで	100~300L/10a	2回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○